

2018年8月31日

## 2017年度学校関係者評価報告書

エール学園  
学校関係者評価委員会

エール学園学校評価委員会では以下のように、2017年自己点検・自己評価表に基づき学校関係者評価を行いましたので、以下のように報告致します。

### 1 学校関係者評価実施概要

#### ① 学校関係者委員名簿

氏名	所属	属性
吉水 雄一	株式会社 OS コンサルティング 代表取締役	企業・業界団体関係者
原田 智樹	株式会社アーストレック 代表取締役	卒業生 企業・業界団体関係者
牧 文彦	NPO 法人ディープピープル 理事長	企業・業界団体関係者
中澤 修	株式会社ケイティエス 常務取締役	卒業生保護者
内山 雅文	大阪 YMCA	在校生・卒業生の出身学校
任 滸龍	エール学園	卒業生 同窓会会長(事務局)
長谷川 恵一	エール学園 理事長	法人代表者(事務局)
萩原 大作	エール学園 校長	学校代表者(事務局)
木村 多恵子	エール学園 日本語教育事業本部 本部長	日本語教育学科運営責任者 (事務局)
木田 明美	エール学園 専門教育事業本部 本部長	専門教育学科運営責任者 (事務局)
豫城 聖子	エール学園 キャリア教育メンタリング室 室長	就職対象学科教務運営担当者 (事務局)
西村 康司	エール学園 キャリ支援室 室長	就職支援関係担当者(事務局)
崎村 真	エール学園 経営支援本部 本部長	法人本部事務責任者 事務局担当(事務局)

## ② 学校関係者評価委員会次第

学校関係者評価日程		
日 時：2018年8月31日（金）午前10時～12時		
場 所：エール学園大会議室		
会議名：エール学園学校関係者評価委員会		
会議次第		
時間	項目	担当者
10時00分	1. 開会挨拶	長谷川理事長
10時10分	2. 委員紹介	事務局
10時20分	3. 2017年度自己評価結果全体について	事務局
10時35分	4. 自己評価結果概要説明 専修学校における学校評価ガイドラインに 基づく評価の大項目別の概要説明	学校側各担当者
11時05分	5. 各学科の活動状況報告及び進路状況について	学校側各担当者
11時15分	6. 質疑応答／意見交換	各委員より発言
11時45分	7. 結果とりまとめと公表計画について	事務局
12時	8. 閉会	長谷川理事長
参考資料		
1 2017年度エール学園自己点検・自己評価結果報告書		
2 学校パンフレット一式		
3 新年度学則（2018年度学則）		
4 学科別在籍状況及び卒業及び進路状況資料		
5 2017年度財務状況資料 決算概要		
6 その他の資料		

2 外部委員よりいただいた意見・評価

評価項目	評価・意見
教育目標と重点目標	<p>●学園としての2017年度の重点目標は明確で具体的な目標が掲げられており、それに向けての計画が実施され、着実に達成に近づけていると評価します。</p> <p>●このような自己評価制度があるのがよい。目標が数値化されて「見える化」がはかられており、わかりやすくよい。</p> <p>●時代の流れに適応して設定されている。</p> <p>●・進学に関して：東大・京大・阪大合格者目標20名対して実績は3名と15%の達成率であったが、国公立大学100名目標に対して実績110名強（達成率110%）と達成は高く評価できる。</p> <p>・就職に関して：就職目標の一つとして上場企業への就職目標15名に対して実績6名（達成率40%）と未達であり、この点については予定した学生募集、またビザ要件の厳格化などの内外部の要因が見られる。</p> <p>・総括：進学、就職とも高い実績を持つ同校であり、他校と比較しても募集、講義内容など特長を持っている中で今後特に重点目標を達成するには、最上流工程の学生募集段階で日本に留学する目的を学生に理解させ、同校ならではの特色を学生に訴求出来るかが重点課題と考える</p> <p>●まずは教職員が自らの使命感に忠実に、仕事を通じ「生き方の姿勢」を学生達に伝え、理念浸透を図られていることは高く評価されると思います。</p>
基準1 教育理念・目的・育成人材等	<p>●教育理念や教育の目的は明確に定められており、長谷川理事長のお話からも伺うことができます。内容に申し分はなく、また定着できているものと思います。</p> <p>●「なりたい自分」以外に「つくす自分」が入っているのがよい。人に対する思いやりの心が育つと思います。</p> <p>●理念の表出に常に意識化がはかられている。</p> <p>●他校にはない同校の最大の特長としての地域社会貢献が浸透しており、課外活動なども積極的に学生が参加する仕組み、また参加する意義を啓発する指導をおこなっているため、課内外で同校の教育理念を終始一貫して浸透させている。一方で課題としてあげられる「学生の授業態度改善」については、講師、学生、授業、日本語力などあらゆる側面から課題があるため、特に学生は非漢字圏からの学生が増加する中で、改善にむけては多くの工夫が必要であり、一方で講師にも負担となっている側面もみながら、学校、講師間と一層の定期的な情報交換が必要と感じる。</p> <p>●教育理念、目的、育成人材ともに明確に明文化されており、具体的かつ計画的に行動指針として実施されています。</p>
基準2 学校運営	<p>●事業計画に沿って運営されていると思われ、各制度、システムは機能していると思います。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業計画が確立されており、計画にのっとって全教職員がその方向に動いており良好である。</li> <li>●計画的である。</li> <li>●学生が期待する卒業後の進路（価値）についても進学、就職とも御校設定の目標値には到達していない目標もあるが、進学では難関大学を始め、同業他校と比較しても高い実績をのこし、殊就職にいたっては就職希望者、また就職専門コース学生は就職率 100%の実績を残すなど、結果を残すための学校運営はカリキュラム、外部企業との連携、学生フォローに関しても常に研鑽を積んでいるため、高く評価でき、同業校からも同様に評価されている。</li> <li>●事業計画を中期計画から四半期目標として運営されており確実に学内浸透を図っておられる点は評価が高いと思いますが、他部署連携による全体を横断的する横と横の連携を通じると更なる創意工夫が生まれる可能性を感じました。</li> </ul>
<p>基準 3 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多彩な学科、コースが設けられており、時代や国際環境、業界の人材ニーズに向けた教育活動に努めていると思います。</li> <li>●教職員が学生のお手本となるべく、日々活動されており、この点は大いに評価できる。</li> <li>●理念と社会ニーズのマッチングを積極的に実践されている。</li> <li>●非漢字圏からの学生が増加する中で、学生が卒業時に求められる価値は従来同様だが、従来通りの手法では学生への理解浸透が図ることができないため（日本語力等から）適宜、担任のメンターから個別学生のフォローをすることを徹底している。またメンターと講師との情報共有も積極的に図る中で、講義内外で学生の状況を多面的に理解し、一方通行にならない学生の立場にたった支援を行っており、学生にとっては「見てもらっている」という安心感が常にあると感じる。留学生では出席率の低下などが社会問題となっているが、そのような問題に対処するには、密なコミュニケーションが重要で、講義内外で学生との対話、現状把握に努めている。</li> <li>●学科別に定められた教育目標や育成人材像を具体的に示しておられ、変化する社会のニーズに応えるためカリキュラムに工夫されている様子が随所に見られます。</li> </ul>
<p>基準 4 教育成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内の高等教育機関への進学や、日本企業への就職に積極的に取り組み、高い実績からも教育成果をあげられていると思われます。</li> <li>●卒業生のほとんど全てが目標とする進路に進んでいる。その卒業生の進路のデータも表示するように望む。</li> <li>●アウトプットにとらわれずアウトカム重視がうかがえる。</li> <li>●従来専門学校と大学はそれぞれ専門性を磨く専門学校と、学問研究を迫及するアカデミーとしての場の大学と別れていたが、学生、また企業など社会が人材に対して専門性、更には実践性を求める傾向がつよく、その点でアカデミーとしての大学以上に専門学校への期待値が高くなっている。特に海外大学からはそのあたりの実践性に対しての需要が高く、同校はしっかりと</li> </ul>

	<p>その期待を斟酌し、カリキュラム体制、新規非常勤講師の募集を行い、授業をブラッシュアップしていることから、海外大学からの期待に応えるベースを有している。「大学卒業後の進路として専門学校に進学する」という道筋を同校は構築したことは大きな成果で、多くの海外学生に新たなキャリアパスにつながる環境を提供している。</p> <p>●各学科別に評価基準を整えておられ、就職、進学、資格取得率の向上とカリキュラムと評価を連動され徹底した PDCA を回されています。</p>
<p>基準 5 学生支援</p>	<p>●奨学金制度をはじめ、学生相談に関する体制も整備がなされ、きめ細やかな支援に取り組んでいると思います。</p> <p>●学生に対する面倒見のよい学校であり、引き続き頑張ってもらいたい。</p> <p>●最終進路までのケアがなされている。</p> <p>●メンターが担当学生に細かく対応し、一次対応して学生の課題などを確認し、その課題を専門で担当する他教職員、並びに講師にも共有をすることで学生にとって大きな安心感がある。ただ講師間の学生事例共有などは更に同様な分野の講義であれば強化することで学生にとって有意義な課題解決の提案ができると感じる。非常勤講師が多い中で、単に仕組化すればよいという問題ではないため、学生にとってはあらゆる教職員、講師が自分のことを同様な認識をして欲しいと感じているため、学生のため（CS）にも今後そのような情報共有のインフラ・仕組の構築が課題となる。</p> <p>●近年見られる多国籍化という難しい状況にそれぞれ専門部署と専門人材を配置され、寮やアルバイトの指導など社会に出るための準備段階として必要な教育を行っていることは大変有効だと思われます。</p>
<p>基準 6 教育環境</p>	<p>●避難訓練や緊急時の対応について体制を整え、防災に関するマニュアルも作成されており、また定期的な修繕計画もなされていることから、防災に対する整備は行われていると評価できます。</p> <p>●新しい 5 号館校舎もこの 9 月には完成するとのことであり、常によい環境が準備されている。</p> <p>●ともすれば教育環境としては好ましくないと捉えられがちな地域性を、逆に優位性として生かされている。</p> <p>●IT 機器の拡充（PC、プロジェクター、Wifi スポット等）も充実化してきており、2018 年秋には新校舎になることで、更に学生にとって学ぶ上で更によりよい環境になると考えている。一般的に大学と専門学校では設備の点で差があるが、同校の新校舎竣工によりますます学生にとって、学びやすい環境になると思われる。</p> <p>●防災への取り組みも積極的に実施しておられます。</p> <p>また、社会のニーズをくみ取り、企業インターンシップに関しても充実されており学生にとっても貴重な社会経験また必要な情報を得る貴重な機会を創出されております。</p>
<p>基準 7 学生募集と受け入れ</p>	<p>●留学生に向けてのホームページやパンフレットに教育理念、教育成果、実績等を明確に掲載して周知を行っており、優秀な学生の確保のための募集</p>

	<p>活動がなされ、受入制度も整っていると評価できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●新しい受付サービスセンターも出来ており、学校案内のホームページも充実している。</li> <li>●順調と思われる。</li> <li>●中国、韓国、ベトナムに拠点を設け適宜現地で大学などの機関と連携できる体制を取り、常に第一線で募集をおこなっている。特に専門学校でも一部コースでは海外からの直接募集を行っており、他専門学校では、基本的に日本国内の日本語学校からの募集が通常である中で、現地での募集力は同業他校よりも非常に高いと感じている。海外の大学との交換留学も積極的に展開する中で、一層意欲の高い学生の募集、そして応募につながることを期待する。査証基準が今後一層厳格化される中で、海外に優れた募集インフラを有する同校には多くの期待が集まっていると感じる。</li> <li>●海外のエージェントなどとの信頼関係構築のため現地事務所を設置されるなど入学説明や、選考、募集にきめ細かく対応されています。また、ホームページやパンフレットなどを充実されていることも正確な理解につながっていると言えらると思います。</li> </ul>
<p>基準 8 財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●留学生数が連続して増加しており、健全な財務体質が実現できており、長期的、中期的な予算計画も円滑に推進されているとのことで、安定した財務状況であると思われます。</li> <li>●学生数の順調な伸びに支えられて、財務内容は健全かつ充実してきている。</li> <li>●順調と思われる。</li> <li>●財務体質は安定しており、通常企業でいう自己資本比率は 56%と高位安定しており、流動資産・負債率をはかる流動比率も 156%とこちらも安定しており、流動負債は対前年からアップしているものの、それを上回る流動資産増加があるため、経営体質としては安定している。</li> <li>●3年連続留学生数については 1000 名を超えられ、安定した黒字体質を実現されており今後は更なる社会の要請に応え定員数を増やす投資に着手されるかどうか長期的な視野で検討されていくこととなります。更に強固な財務体質を背景とした決定が望まれると思います。</li> </ul>
<p>基準 9 法令等の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●留学生に特化した学校として、国や入国管理局、監督官庁の関係法令の遵守には力を入れているものと思われます。</li> <li>●充分守られて運営されている。</li> <li>●特になし</li> <li>●日本に留学を希望する学生の増加により常用労働者数が 50 名を超える中で働き方改革、コンプライアンス、労働管理なども徹底しており、特に学校法人であるため、個人情報の管理が非常に重要になる中で、社内インフラ体制を含めて、情報管理の IT 化などにも積極的に投資している。</li> <li>●各種法令に基づく運営をされており申し分ない対応、運営をされていると思います。</li> </ul>

<p>基準10 社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通訳・翻訳の要請に積極的に協力しており、地域貢献型インターンシップの実施やボランティア活動の奨励、企業や団体との連携・交流、学校施設の解放など、様々な取り組みを行っており、評価できます。</li> <li>●御堂筋の清掃等新聞報道もあり、又、地域住民の方との関係も良好で大いに評価できる。</li> <li>●積極的に外部との繋がり、連携、協働がはかられている。</li> <li>●ボランティア活動、地域貢献型インターンシップなど同校の最大の特長である地域社会貢献は随所にみられ、おそらく地域、社会貢献では同校より周知徹底している学校はなく、最も高く評価できる点である。</li> <li>●ミッション、ビジョン、行動指針を明確にされて運営されており、地域社会が必要とされる人材の送り出しを実現されています。全国でも有数の理念実施のモデル校であるとますますのご活躍を期待しています。</li> </ul>
---------------------------	---

### 3 まとめ

エール学園では、自己点検・自己評価とそれに基づく学校関係者評価での意見・評価を今後の学校運営の改善に活かす努力を続けるべくここにこの結果を公開致します。また継続的に自己評価→学校関係者評価のサイクルで教育の質向上に努力する所存です。

以上